



# Earth Rise

No. 11

平成26年7月18日(金) 発行

矢掛高校の活動や地域の様子・ESD  
等について発信していきます。

岡山県立矢掛高等学校長 川上公一



## 第1学期終業式にあたって

明日からいよいよ夏休みです。多くの人は、この休みをどのように過ごそうかと、計画を立てていることと思います。夏休みというのは、自分のペースで学習を進めることができる絶好のチャンスであり、時間をかけて一つのことに取り組める機会でもあります。

健康や安全に気をつけ、成果の上がる夏を過ごしましょう。高1の夏はこうだった、高2の夏はこれだったと、大人になってからも思い出せるような素晴らしい夏を過ごしましょう。3年生はもちろん進路に向けた夏になります。自分の希望する進路に向け、全力を傾けることがなにより大切です。

幕末の思想家吉田松陰は「**至誠而不動者未之有也 不誠未有能動者也**」と『孟子』の言葉を説いています。誠意を尽くして事にあたれば、どのようなものでも必ず動かすことができる。逆に不誠実な態度で事にあたれば、何ものをも動かすことは決してできないという意味です。「至誠」とは、ふだんやらなくてはいけないことを誰にも負けないくらい真剣にやることです。これは本校の校訓、『至誠力行』そのものです。

高1の夏は一度だけ。高2の夏は一度だけ。そして高3の夏も一度だけ。人生にとってかけがえのない貴重な季節なのです。

4月21日、就職希望者を対象とした就活セミナーを実施しました。講師の筒井徹也先生は、社会人としてよいキャリアを積むためには「見通し・夢・希望」をはっきりもつことが大切であると話されました。最後に話された「目的地のない船に追い風が吹くことはない」という言葉が心に残っています。その言葉を受け、私は「帆を広げない船に追い風が吹くことはない」と御礼を申し上げました。矢掛高校は、学校として精一杯諸君の進路実現のための支援をして追い風になります。君たち自身がしっかり帆を広げてこの追い風を受け止めなければなりません。いくらよい風が吹いていても帆をたたんだままでは風は受け止められないのです。船は進まないのです。

今高校卒就職者の5割、大学卒就職者の3割の人が3年以内にその職を離れているとの統計があります。理由の一つに、「やりたいこと」と「できること」のギャップがあるようです。

就職に限らず、進学でも同様です。単純に漠然と「やりたいから」「楽しそうだから」ととどまらず、その仕事が自分に本当にできるのかどうか、能力・適性があるのかどうかを見極めることが大切になります。あわせて、体力やコミュニケーション力、学ぶ姿勢や協調性が求められます。

「やりたいこと」と「できること」はイコールではありません。ときには、「やりたくない」こともやらなければならないのです。それによってしか「できないこと」を「できること」に変える手立てはないのです。

最後になりますが、私は高3の夏、親友を交通事故で亡くしました。彼の葬儀の日、母親は一夜で白髪になっていました。茫然自失の夏でした。

どうか事故のない規則正しい夏休みにしてください。そして高い志を立て、その実現に向けて、自分の成長につながる充実した夏休みにしてください。

